

## K1、Kids2 について

### 2024/25 シーズン県内 SAN 公認大会

2/1~2	梶池	GS×2
2/15~16	白馬	GS×1、SL×1
2/24	野沢	GS×1
3/1~2	戸隠	GS×2
3/8	菅平	SL×1
3/30~31	志賀	GS×1、SL×1

・5、6年生のスタート順はシリーズ戦ランキング10位までを第1シードとしてドローする  
それ以降はオールドローする（県外選手も含める）

菅平と戸隠2戦目はJOCジュニアオリンピックカップの種目別ランキングを決める大会となるため県外選手は第3シードとして最後にドローする

・3、4年生はフリードローとする（開催地にドローの方法は一任する）

・梶池GS1戦目と白馬SL1戦目はオールドローで行う

### シリーズ戦

順位ポイントをつけて、K1、Kids2の男女3位までを表彰する

表彰は志賀の最終レース終了後に行う予定

対象レースは5、6年生全レース、3、4年生は白馬、野沢、志賀のGS3レース

最終順位が同点の時は志賀のGSを優先する

\*シリーズ戦の結果に基づき、リーダービブの着用は行う（初戦以外全SAN公認レース）  
各カテゴリーにおいてリーダーが欠場の場合は、該当選手無しとしてそのカテゴリーのリーダービブの着用はしない

\*ポイント：1位20点、2位9点、3位8点、4位7点・・・10位1点、以下0点

### ジュニアオリンピック予選

出場枠：男子15名、女子10名+開催地枠男女各5名

GS：梶池2戦目、白馬、野沢、戸隠の男子3位女子2位までが出場決定

SL：白馬、菅平の男子3位女子2位までが出場決定

上記を踏まえて菅平のレースで最終人数とSLランキングを決める

GSのランキングは戸隠の2戦目で決める

ランキング決定の際、勝ち抜けした選手複数人が菅平や戸隠のランキングを決めるレースをゴールしなかった場合、それまでの公認大会の成績を勘案してK1正副主任の協議にて決

定する

GS、SL 共に本戦参加枠を基準にしたポイントを付与しそれを踏まえて本戦参加選手を決定  
ポイントが同点の場合は戸隠 GS で成績の良い選手を優先する

本戦出場選手は両種目とも共通の選手が出場する予定

参加人数はまだ連絡がないためわかり次第ホームページ等で連絡する

参加人数：男子 20 人、女子 15 人（県枠含む）（個別参加資格者 1 名は含まれていない）

予選の得点の付け方：予選の順位に得点をつける

男子：1 位 20 点、2 位 19 点…20 位 1 点、以下 0 点

女子：1 位 15 点、2 位 14 点…15 位 1 点、以下 0 点

勝ち抜け選手以外はこの得点の合計で高い選手から選考しランキングを決める

勝ち抜け選手が複数名両レース DNF や不参加だった場合はそれまでのレースの結果をも  
とに正副主任で協議のもと決める

JOC のスタート順は選考レースの順位がランキングとして各種目別に採用される

参加者の最終決定、スタート順ランキングは正副主任で協議し決める

いずれかの種目で菅平、戸隠のレースがキャンセルの場合は下記のレースで選考する

GS は野沢、SL は白馬が選考レースとなる

GS 野沢が中止の場合は GS 白馬を採用

GS 白馬も中止の場合柵池 2 戦目を採用

SL は白馬も中止の場合 GS の順位のみで決める

## その他

- ・スキーマの板は SAJ ルールに準ずる

スキー用具に係る国内運用規定について

<http://saj-wp.appmlj.com/wp-content/uploads/fb9c7165f2996e658622b5443da2807a.pdf>

全ての選手が安全に競技を行える様、コーチ・保護者の皆様の安全な用具選択を訴求いた  
たします。

	GS	SL
K1	FIS ステッカー[RH2013]が明示され ているヘルメットの着用を義務と	ヘルメットの耳部分のソフトパッド の使用を認める。*SAJ 特別規として

	し、DH、SG、GS 競技に適用される。メーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。	SL の FIS 規定については推奨とする*SAN K1 としてメーカー公式付属品以外の装着は禁止とする。
Kids2	レーシングヘルメット(頬までプラスチック素材で覆われたもの)を推奨とする。	K1 カテゴリーに準ずる。

\*K1：5、6年生 Kids2：3、4年生 Kids1：1、2年生

・大会や練習会において TD や大会関係者から注意があった点

ヘルメットに突起物のついた選手

ゴーグルにリフト券ホルダーをつけて滑っている選手

ワンピースからフードやリフト券ホルダーの紐などが出たまま滑っている選手

ブーツのバックルが外れたままスタートしようとする選手

上記は怪我のリスクが高くなったり、大会の運営上スタートの遅延などの原因となるため絶対におこなわない

・追加ルール

ICR 614.2.3 競技者が止まった後の継続禁止

競技者が完全に止まった場合（例：転倒）その競技者は、前の旗門やその後の旗門を続けることはできない。

《シングルスラローム競技における通過の定義》

ICR804.3 アウトサイドポールがない場合は、スラロームの通常のレースラインに沿って、ターニングポールからターニングポールまでの架空の線を越え、両足とスキースの先端がターニングポールの同じ側を通過しなければならない。もし 競技者が、ポールをまたぐなどの失敗をしていないにもかかわらず、片方のスキーを失った場合、残ったスキースの先端と両足が、両方の条件を満たさなければならない。外側のポールがある場合（最初と最後のゲート、ディレイドゲート、コンビネーション（ヘアピン、バーチカル）は、第 661.4.1 条が有効である。

<http://www.ski-japan.or.jp/game/69621/>

フッ素ワックスの使用禁止

フッ素ワックスの使用禁止並びに検査の実施が今シーズンより適用されます

詳細は下記サイトを確認ください

<http://www.ski-japan.or.jp/game/69661/>

\*わかりにくい部分もあるため各コーチから説明を聞いてください

## K1 役員

主任 村本清太郎

副主任・北信 A ブロック主任・エントリー主任 里野寛太

北信 B ブロック主任 宮津大樹

北信 C ブロック主任 嶋田健人

東信ブロック主任 小林隼也

中信ブロック主任 久山敏雄

南信ブロック主任 重野将人